



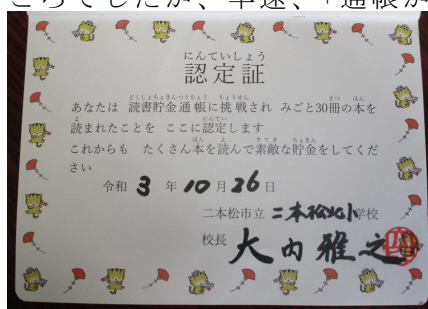
輝け！北っ子！

読書貯金通帳

～30冊読破 第1号認定証発行！！～



「子ども自らが主体的に楽しく本が読めるように」「読書によって心に素敵な貯金を」「自分が読んだ本の足跡の記録として」等を目的に二本松市教育委員会から子どもたちに「読書貯金通帳」が渡され、学校では、朝の読書タイムや国語の授業、家読（うちどく）等の活動と連携しながら取り組んでいます。この通帳は学期に一度家に持ち帰り、子どもたちの読書の状況を確認いただく予定でいます。通帳は30冊読むといっぱいになり、いっぱいになれば、通帳の最後のページにある「認定証」を発行するという取り組みです。10月から各学年の実態に合わせて取り組みはじめたところでしたが、早速、「通帳がいっぱいになった」ということで校長室にやってきました。



くれた子がいました。認定証第1号は1年の武藤瑛希さんでした。素晴らしいがんばりです。読書の秋、認定証の発行がどんどん増えてくることを期待しています。

ちょっといい話 北小の伝統 「靴そろえ」 ～伝統を支える 陰の努力は生活委員会～



「下足入れに靴をしっかりと並べて入れることができる」ことは北小のすばらしい伝統だなと北小に来たときから感じていました。もちろんこのことは子どもたち一人一人の意識が作り出しているものであることは間違いないと思っています。しかし、実は私は「よくもここまで完璧に靴そろえができるものだなあ」と不思議に思っていたのも事実でした。



先日、その思いがスッキリしました。昇降口であいさつ運動をしている生活委員会があいさつの合間にみんなの靴をしっかりとそろえてくれていたのです。下足入れの端にしっかりと靴のかかところが合わせてあるか、しっかりと見て、ちょっとでもずれている靴はしっかりと揃え直してくれていたのです。「一人一人の意識+児童会委員会の力」です。伝統を下支えする活動をさりげなく、地道に行う子どもたち。手前味噌ながら、北小の子どもたちの素晴らしさを実感しました。多分子どもたちは（もしかしたら先生方も）「靴揃え」をしてくれていることを知らなかったかもしれません。感謝の気持ちすらもっていなかったかもしれません。もちろん、生活委員会の子たちは「知ってほしくて」「感謝してほしくて」等見返りを求めて活動しているとは思いません。しかし、こんな地道な活動にこそ、大きな力があり、多くの人を知ることができるようにスポットライトが当たってほしいと切に思います。